

第2回大磯町立中学校給食に関する懇話会会議録

[日 時] 平成24年11月12日(月)午後3時～午後4時45分

[場 所] 大磯町役場4階第一会議室

[出席者] 大磯町立中学校給食に関する懇話会会員 13名(大磯小栄養教諭欠席、大磯中学校長欠席(代理出席有) 国府中学校PTA代表欠席(代理出席有))
大磯町教育委員会 学校教育課長、同副主幹兼指導主事、同教育総務係長

[傍聴者] 0名

[議事概要]

1. 開会

2. あいさつ

3. 前回懇話会の質疑に対し、次の資料を基に事務局より報告を行った。

①授業カリキュラムと給食費資料

委員) 給食費の月額について、1食当たり額を20日間で掛けて算出したと説明されたが、実際本校では、1食当たり250円ですが、月額は、4,000円であるので単純に掛けた金額ではないと思われることを指摘させていただきたい。

②大阪府箕面市の事例資料

③学校給食法(抜粋)資料

④大磯より二宮へ異動された教諭への聞き取り内容の報告(資料なし)

事務局) 元から二宮町で勤務している教員では違いがわからないので、大磯の中学校から二宮の中学校へ異動した教員へ話を聞いてみたところ、部活動の時間が非常に短いと感じるとのことだった。また、給食導入の開始時が、生徒指導の面で、慣れるまでが一番大変ではないかという意見があった。

4. 議 題

議題については、会長が議長で、会議の進行を行うこととし、公開での会議とした。

議長) 第1回目では、自由な意見交換をし、予算、金額面では重点を置かずに会議を進めた。本日は、場合によっては、予算を含めて意見交換をしたい。

(1) 中学校給食に掛かるアンケートの実施について

初めに、事務局から《中学校給食に係るアンケート資料》《質問内容の例》《他市町中学校給食アンケート内容》の資料を基に説明を行ない、意見を求めた。

事務局) アンケート項目について、第1回で近隣の状況資料を提示したものを分類した。対象者として、平塚市は、市民からの抽出者、伊勢原市は、小中学生とその保護者、教職員、愛川町は、小学生は6年生、中学生は2年生とその保護者、教職員、町民の抽出者となっている。基本項目事項は、性別、年齢等。伊勢原市は特に質問は設けてない。実施について方式については、平塚市は方式別に設問を設けている。平塚市と愛川町は、整備費用について、設問を設け、コスト面を含めて考えてもらえるようにしている。他には、愛川町は対象別に小学生、中学生、町民のアンケート内容を分けている。現状の

昼食状況や小学校給食、食育についての内容も多く設問としている。質問内容の例については、事務局で一例としてあげた。質問項目や内容についてこの後、意見を出して欲しい。事務局で考えた質問項目だが、現在、健康を担当する部署において、食育推進計画を策定中であり、今年度中に食生活に関するアンケートを実施することなので、中学校給食に関するアンケートでは食育に関する項目は抜いて、中学校給食の実施について直接判断して頂く内容だけにしている。まずは、現状の家庭からの持参弁当についての考えを聞いてはどうかというつくりとなっている。次に中学校給食に期待するものといった質問項目。次に中学給食について実施する際、5つの方式について示していて、それに感じることを質問とした。ここでは、この後、説明する整備費や維持管理費用等を考慮した中で、回答してもらうような設問もある。今までの回答や整備費用や維持管理費用等を参考に総合的に考えた中で、中学校の昼食について、家庭からの持参弁当を含めて、あくまで事務局の案だが、方式について順位をつけてもらい、方式を選んでもらうなどしてはどうかと考えた。

アンケート内容についても、愛川町のように対象別に分けることについても意見をいただきたい。

次に、中学校給食に係るアンケート資料のたたき台だが、中学校給食に実施するにあたり、費用面や今後の施設改修、修繕計画などの実情を知っていただく必要があると考える。実施の方向性を出していく場合は、費用も掛かることなので、覚悟が必要だ。資料にも表記したい。中学校給食を実施するには、例えば、自校方式、センター方式、親子方式は、施設の建設や大規模な改修費用が掛かる。数億円の費用のほか、維持管理費が掛かる。また、現状として、学校施設の老朽化により維持管理費が増大している点や、今後の大規模改修の計画も進めて行かなければいけない点など、教育費を含むさまざまな費用を見直しながら、進めていくようになる。本日の資料には費用の額などの詳細な数字は載せていないが、概算だが、自校方式、センター方式、親子方式の整備費用で約4億～10億円程度。10億以上掛かることもある。一番費用が掛かるのは、土地の購入が伴うセンター方式で、次に自校方式、親子方式の順。給食調理員の人件費や給食設備費の維持管理費年間5,000万円～8,000万円程度掛かると思われる。懇話会の委員には次回の懇話会において、整備費用や建設に掛かる法規制などについて説明したい。アンケートの質問の例だが、思い当たるものを羅列した。質問について意見を伺いたい。意見を伺って案を作成したい。

議長) 事務局より資料の説明があったが、内容について質問等をお願いしたい。

委員) アンケートはいつ頃、誰に行うのか。

事務局) 他市町の例を示したが、事務局では、対象については決めていない。

委員) 町民に行う際は、全町民か。

事務局) 一般町民に行う際は、抽出となると思う。小学生、中学生についても全児童、全生徒にやるのか、それとも学年を決めるなど方法はいろいろ考えられる。その辺りのご意見がほしい。

委員) アンケートの対象が絞れてないと質問の内容も変わってくると思う。

関心の高い当事者を中心にとっていくのがよい。

最初の質問項目だが、家庭から持参する弁当について、良いか、良くないかの聞き

方ですが、これは戸惑うと思う。弁当は良いに決まっている。それよりも、はっきりと弁当が良いか、給食が良いかと聞いた方がよいのではないか。

議長) 他に質問はあるか。まずは、対象をどうするか意見を伺いたい。

委員) 近隣の小学校の給食室を活用してとあるが、それを親子方式と呼ぶのか。

事務局) 大磯に当てはめた場合は、そうなると思う。近隣にある施設を活用した場合をそう呼んでいる。

議長) 事務局は、対象について絞り込みはしていないとのことである。皆さんの意見を伺いたい。

委員) 町民の税金を使うことを考えると町民にとることは必要だが、メインは**当事者**だと思ふ。

委員) 授業カリキュラムのことがあるので、教職員にもアンケートは実施してほしい。生徒、教職員、保護者、広範な地域住民が入っていれば良い。

委員) 対象は今のような方で良いと思われるが、このアンケートを元に何をするのか。

事務局) まずは、実際のニーズを把握することである。普通にアンケートを取るとニーズはあると思うが、税金を投入するので、投入額がいくらぐらいかかるのか。また、今年度、大磯小学校の耐震改修工事を実施している。次年度は国府小学校のトイレ改修を行う予定である。国府中学校については大規模修繕工事の計画もある。毎年1億近い金額の学校施設の改修が目白押しである。こういうことを考えると整備費は1回だけだが、維持管理費は、毎年5,000万~8,000万円近く掛かってくる。当然、こういう経費が掛かることを分かった上で、学校給食を実施するんだという覚悟は、持たないといけないと考えている。私たちが予算要求をする立場として、予算確保するには、納得させるだけの材料が必要だ。誘導しているのではないが、ただ給食がいいだけの回答では、町の政策的にみても、かなり高額な、10億単位の当初の投入費と年間維持費が掛かる。その辺も含めて考えてみる必要があると考えている。

委員) アンケートには、今、説明があったようなことも書くのか。

事務局) 書き方はあると思うが、いくら掛かる等の情報は明示したい。他市のアンケートなどを参考に、絵なども入れて、わかりやすく工夫したい。

議長) アンケートの対象としては、給食を食べる子どもたちと保護者の問題だけではないので、税金投入のことがあるので、一般町民にも聞いていく。これについての意見はあるか。

委員) 前回の議論にもなるが、この間の感触としては、給食はありがたい。助かる。栄養価が高いなど、給食だけを考えると給食をやってもらいたい。教育の充実を考えるとありがたいと思う。ただ、莫大な費用が掛かってくる。例えば、この予算があれば、35人学級編制や、教職員の定数増などになったらいいと思う。また、このように学校の施設改修などの実例が載っているが、そうなってくると純粋に給食がいいとはいえなくなりブレーキが掛かる。その部分を資料にあります箕面市は、予算の面をクリアした良い例だと思う。その部分をどういう風に私たち自身が、考えていくか問題である。アンケートの費用の資料だけ見ると、単純に給食を実施してほしいと言えない部分がありジレンマがある。他の市町村でも、大体その折衷案に業者弁当、デリバリー方式で、落ち着いているようだ。完全給食を実施して欲しいという意見が多くても、費用のことを考

えると、税金投入などトータルなことを考えるとそこに落ち着くのではないか。ただ、前回、中途半端な実施はして欲しくないという意見が出た。総合的に考えた中で、アンケートに臨みたい。

議長) 箕面市の事例について、資料の中に、導入費用の記載がある。箕面市初期費用が約20億、うち箕面市が約11億、大阪府7億、国から2億。なお、毎年の運営費や箕面市の単独負担で年間1億2,000万。8校分である。

委員) 8校なので、単純に8校分でよいのか。

事務局) 一概には言えない。

議長) 大磯町に当てはめると、相当な初期投資と年間運営費を見込まなければならない。

事務局) 箕面市と若干違う点は、整備費の補助金について、大阪府から7億出ているが、神奈川県の場合、このような補助金はない。出たとしても国庫分のみである。大阪府については、大阪府が給食整備に掛かる補助金を創設したので出ている。推測であるが、給食実施率が低いので、このような補助金を創設したのではないか。

議長) アンケートの対象者について、ほかの意見はあるか。では、対象については、生徒、保護者、広範な地域住民、教職員とする。

事務局) 小学生児童又は、全学年での抽出とすべきか意見をいただきたい。

委員) 小学生の保護者の方が、関心が高い。国府小 PTA 運営委員会で話をしたが、保護者は是非やって欲しいという意見だった。アンケートをするなら大半の当事者にやってもらいたい。残り40%ぐらいを一般町民と教職員でよいのではないか。

議長) 他に意見がなければ今のとおりでよいか。

委員) 小学生は、あまり低学年だと回答できないのではないか。

事務局) 例えば、他の市町ですと、小学生では6年生、中学生であれば2年生としている。導入するころには中学3年生は卒業してしまっている。どちらかというと思恵を受けるのは小学生である。施設を建てるものについての導入には時間が掛かるので、そういう学年を選んでいると思う。中学生であってもデリバリー方式など比較的早く導入できるものもあるので、可能性が無いわけではない。そういう中でいうと、メインは小学生になると思うが、低学年だと回答できないこともあるので、高学年にするとか、保護者と一緒に回答させるなど方法はある。一般町民は集計を職員がやるので、抽出でないと難しい。

委員) 対象のことだが、小学生はこれからのことなので、全学年でもいいのか、高学年でよいのかとも思う。中学生に関しては、3年生までの全学年にとってもらいたい。給食の恩恵は受けられなくても、逆に客観的に現実に、お弁当が良かったのか、給食があったほうが良かったのか、客観的に意見がきけるのではないか。自分たちが食べられるのが前提だと便利だからいいに決まっているという意見になってしまう。是非、中学生については、3年生まで取ってみて、3年間過ごしてみてどうだったのかということが、参考になると思う。

議長) 前回の資料にも、他市ではあるが、弁当への感謝の気持ちが載っていた。対象については、町民については抽出、教職員には全員、小学生は高学年、中学生については、弁当の部分の結果について知りたいので、1～3年まででよいか。

委員) 保護者は、高学年の保護者か。

- 議長) 親子でセットにするか。住民の中に保護者も含まれていることも考えられる。
しかし、必ずしも住民の中に保護者が抽出されるとも限らない。
- 委員) 小学生は、小学生自身にアンケートをとるのか。親ではないのか。
- 事務局) 当事者と考えている。
- 委員) 保護者は全部とったほうがよいのではないか。
- 委員) アンケート数はどの程度になるか。
- 議長) 中学校で約 800 人弱、保護者がその 2 / 3 となるのではないか。
- 事務局) 約 2,000 強だと想定している。
- 委員) 各 PTA で手伝ってもらうのもよいのではないか。
- 議長) 記述が多くなければ、処理が早い。
- 委員) 簡単なアンケートがよい。
- 事務局) なるべく質問数を抑えたい。
- 委員) 質問項目は単純でも、メリット、デメリットなどを載せつつ、こういうことがあるので、考えて回答してほしいとしたほうがよい。考える資料が必要と感じる。
- 委員) 先ほどの対象の話だが、小学生の高学年 4, 5, 6 年についてもアンケートを実施するとのことだが、栄養についてなど質問内容に答えられないのではないか。単純に給食がよいか悪いかしか答えられないのではないか。小学生については、持ち帰って保護者と一体としたアンケートが望ましい。中学生は、自身の経験を踏まえて書けると思う。小学生に対して行う質問はほとんどないと思う。
- 委員) 税金の話や、負担の話を書けるので、小学生には答えられない。税金の話を書けるのであれば、デリバリーやセンターなどの方式別に載せて、選択してもらったらその方式になるのか。町に予算が出せるのか、出せないのか。出せないのにやっても仕方がない。いくらお金が掛かっても町民がやるといえばやるなら、話は別である。耐震工事が先だから出せないとか。トイレ改修があるから出せない。資料にこのように載せられると、給食をやったらこっちが出来ないと勘違いする人が出てくる。このような載せ方ではなくて、町の全体の予算がこれだけあって、そのうち、これだけ中学校給食に掛かる。それに対して、他の部分でこれだけ削らなければいけない。給食のために税金を増やさなければならないなど、そういう書き方でないと誤解する人がたくさんいる。逆に、デリバリー方式、センター方式にするのかと言うことは、後でいいのではないか。現実的にできるのか、できないのか、それからでよいのではないか。
- 議長) 対象については、小学校高学年については、保護者と話し合っただけで回答する方式で、委員からの意見にあった、町全体の予算額がこれくらいあり、中学校給食に初年度に投資しなければならないお金が全体のこれくらい。こういう部分が削られますという話を内容に載せていく。意味合いとして、体育館改修やもろもろの改修に掛かるお金がなくなることも含んでいると思う。
- 委員) 含んでいるのか。
- 事務局) 教育委員会では、当然両方とも実施していく。ただ、両方実施となると、かなりのコストが掛かる。町の予算が 80 億強だが、教育費が伸びるとその影響は、他の経費に影響してくる。教育費は確保できても、例えば老人福祉費が減るなど、パイは決まっているので、どこかで帳尻を合わせるといふ影響がでる。当然やると決まれば教育委員会

では、両方やっていく。ただ、町の予算を見た中で、決めることになる。

委員) 広報に家計に例えたグラフが載っていたが、こういうものを添付してはどうか。

事務局) それは可能である。町長としては、25年度予算での重点事項にもなっているが、パイが決まっているので難しい面もあるが、ニーズがあればやっていこうという気持ちはあると思う。

委員) 予算の話や、教員の負担や授業のカリキュラム変更などの話は載せないといけないと思う。

事務局) 質問の中にこういう方式だとカリキュラムに影響が出るといったことや、知ってもらいたいこと、周知したいことを示したい。

議長) 懇話会としては、アンケート対象は、小学校高学年については、保護者と一緒に、中学生は1年～3年の全学年と、全保護者、町民の抽出、全教員でまとめていきたい。次にアンケートの内容についてはどうか。

委員) 対象が絞られたが、対象に合わせた質問項目になるのか、共通質問もあって、細分化した質問になるのか。

事務局) なるべく共通のほうが統計もとやすい。対象によっては、変える必要がある。

議長) なるべく共通で、部分的に変えていく。対象に応じて、そういう質問の仕方をせざるを得ない。教職員に対しては、中学校給食の実施によって教育課程の編成がどうなると思うか、中学生や保護者に対しては、中学校給食の実施によって教育課程の編成により部活動の練習時間等に少し制約がでる。30分～40分活動に費やす時間がなくなる。と同じ質問だが、対象によって聞き方を工夫する。誘導型の質問、導入ありき型、導入なし型は、してほしくないと思う。

事務局) 資料を出すことが、誘導的になってしまうのか、実情を知ってもらうには必要なのか迷うところである。出さないと実情がつかめないなので、今日ご意見を聞いて作成していきたい。しかし、実情は理解してもらいたいという思いはある。

議長) コストを負担してでも導入をして欲しいのか、コストを負担するのは、別の視点から考えたら止めたほうがいいのではないかと、半々になるような質問内容にしてもらいたい。

委員) 一度にアンケートの中に予算やコストが掛かるという資料をつけられると内容的にもボリュームがあって理解するのが大変。まず、アンケートを実施することを周知する通知を送る中に、資料を一緒に入れる。その後、アンケート用紙だけを郵送する方法もあるのではないかと。

委員) 盛り込みすぎるとわからない。焦点は2つ。やるのか、やらないのか。やるならどうするのか。やるか、やらないのかが、決まってないのにどういう方式がいいか、を聞いても意味が無い。幾らしかないで、これで出来ることを考えよう。と逆に町から提案してもらわないと何もでない。もともと文部省からやってくださいとなっていて日本の80%が実施していて、どうして大磯でやらなかったのか、できなかったのかを説明すべき。そこから始まらないといけない。給食が良いか、悪いかは専門が国にあげて討議した結果で、国が指針を出しているのだから、その指針に従わず、やらなかった大磯町にはどういう理由があったのか。

議長) 冒頭の質問の答えにあったが、聞いたがわからなかった。

委員) 特に理由がなかったのではないか。お金がなかったのではないか。

事務局) 歴史的には、昭和の古い時代の話なので、資料はなく、昔の方に聞いてみたが、わからなかった。今と経済状況は違ってきているので、これからやるとなると莫大なお金が掛かる。ある程度早い時期から導入していたところは、給食があつて当たり前なので、老朽化で建替えなどが進むが、今から導入を考えるとそうはいかない。推測だが、その当時の大磯の家庭状況や子どもの栄養状態など議論はされたと思うが、資料が残っていないので、なんとも言えない。

委員) 記録を見つけられなかったというのは話し合われていなかったということだと思う。

事務局) そのことも、話し合いの結果の資料というのは、5年保存か、長くて10年である。永年保存にはなっていない。40年、50年経っている書類は破棄されている。あとは、法律、条令上で残っているものはあるが、今回のケースはない。

委員) 記録がないので、そんなに特別な理由があつてやつてこなかったということではないと判断される。しかしながら、今、ここで要望があがつていて、本来、中学校でも学校給食をやるべきだといわれているので、やらない特別の理由を明示しない限り住民の理解はない。これだけ先延ばしにして、子育てに環境のいい街づくりを目指しているが、全国レベルで低いとはっきりいわないと誰も考えない。ずっとやらないのであれば、大磯は、給食をやらない町だということを宣言すべきである。そこをはっきりしないと無駄である。

委員) そもそも給食をやつてほしいので、アンケートを取つてくれというのは、どこから出た話か。

事務局) 実はまず、アンケートをとるかどうから聞こうという話もしていた。

委員) 今日は代理で出席しているが、中学校からはアンケートを取つて欲しいような話が出ていない。それをどこから掘り起こしてきて、中学校給食をやりたいとなつていいのか。聞いていると、毎回、教育委員会のパフォーマンスにしか見えない。予算がなくて出来ませんといっているのに、アンケートを実施して、糠喜びさせているだけだ。他委員が発言したようにできるか、できないかを決めてから、アンケートをとらないと、とりあえずアンケートを取りました。でもできませんでした。結果は見えている。アンケートを取るからには、実施する方向なので、皆さん協力お願いしますとしない限り、たたき台をみても、やれるかどうかわかりません。としか読み取れない。中学校としては、やるのか、やらないのか、どこからアンケートが出てきたのか、持ち帰って PTA の運営会議の中で話さないといけない。ただ単に町からアンケートを取る指示が出ただけでは、中学校の中でも給食が欲しいという人もいれば、今のままだいいという人もいるので、それを困惑させてしまうようなアンケートでは困る。どちらかという小学校のほうから湧き上がってきたものにしかとれない。

事務局) 会長とは、最初は、アンケートをとるか、とらないかということもあると話していた。全体的には取る方向で進んでしまつたが、たたき台は、一例であつて、中学校給食を考えていこうというのが、町長からの指示の中で、教育委員会として検討している。ニーズはあるというのは察知しているが、そのニーズを知る1つの手段としてアンケートを取つていく。やるからには議論を深める必要があると思う。無駄にならないようにやつていくが、こういう部分があることを知ってもらいたい。

委員) このようにアンケートを出されると、いよいよ動くなと思う人が、ほとんどだと思う。ですから、焦点が、2つあるのがいけない。やるか、やらないかをまず決めてもらいたい。そこから細かいことをきくのであれば、皆さんは真剣に考えると思う。町長が何を考えているのか分からないが、議論を深めるのはここだけでやっても仕方が無い。町全体の人が議論するならわかるが、いくらここで議論しても、まず、やるか、やらないかで、やるのであれば、これ位費用が掛かることを言う。やる、やらない、を問うのであれば、そのアンケートにすべきである。学校にはこういう問題がある。町にはお金の問題がある。栄養の問題もある。その中で予算をこれだけ使って、町で中学校の給食をやりますか。としたアンケートにしたほうがわかりやすいのではないか。それで、実施する意見が多くて、町がやらなかったら問題だ。町長はそれをどう考えているのか、ここへ来てもらったほうが早い。

議長) 設置要綱に書かれているように、大磯町立中学校における中学校給食の必要性や実施に向けての課題等を調査し、食育の推進を含めた中学校給食のあり方を検討するためにこの懇話会が設置されているので、今、やっていることは、あくまでも中学校給食の必要性や実施に向けての課題を調査することである。今、いろいろな意見が出てきているが、今後もいろいろな意見交換をして、最終的にはこんな形になった。と言うものがここでできればよいと思う。できなくてもいろいろな意見を出していただき、例えば2案で提起した形でまとめさせてもらって、事務局が持ち帰り、教育委員会定例会に提案し、検討してもらおう材料を整理していると考えていただき、少し前向きに考えて欲しい。

委員) はじめてこの懇話会に出席して、いろいろなことを聞いて、栄養のこと、お金のこと、日本全体の現状のこと、大磯の町の予算のことを聞いて、これでほぼ調査は出来ていると思う。この資料をまとめて、町民に報告して、給食をやるのか、やらないのか、それを問うてくださいと町長にお願いして、それで動かないと、もしやらないということになった時にこのアンケートはいらなくなる。職員の時間も節約できるし、我々の時間も節約できる。焦点は、やるか、やらないか、だけである。やるならどんな形ができるのか、ということならいくらでも話をする。町長の話も聞きたいので、この懇話会は、運営に関して必要な事項は、教育長がその都度定める。必要があるときには、構成員以外の者に会議の出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。とあるので、町長に来ていただくことをリクエストしたい。

事務局) 町長もそうだが、教育委員会は独立行政機関なので、教育委員がいるので、そういうご意見があることは、事務局でも承知している。

委員) この間、町長にもリクエストした。

議長) 内容についての質問の仕方ですが、やるのか、やらないのかのところですが、賛成ですか、だけでは、はいで終わってしまう。賛成ですか、反対ですか、の両方の項目を作らないと、ある一方だけの設問だけだと、ある意味誘導型のアンケートになってしまう。

委員) ここで話をしたことを簡単にまとめて盛り込んだ上で、こういう問題があって、どうして給食をやってこなかったのかの説明があって、それで、やる、やらない、を聴いてもらいたい。

委員) 教育委員に来てもらって意見交換をするのもいいのではないかな。

事務局) 今回の内容については、21日に教育委員定例会があるので、1回目の懇話会の内容は報告しており、最初は、教育委員もオブザーバーで出席してもらって話もしていた。そういうことも有り得るので、教育委員へは伝えさせてもらう。

議長) お手元にある資料の第1回懇話会会議録は当然、教育委員へ渡っているのですが、会議内容は把握してもらっている。皆さんには、今後ともフリーな発言をお願いしたい。委員の発言にもあった、一般論なのか、個人論なのか、町としてこれはやるべきものなのか、やるべきでないのか。個人的にやってほしいのか、やってほしくないのかと言う形で、是非内容を立てていただければありがたいと思う。でないと税を投入する部分をわざわざ資料として提供する理由がないのかなと思う。

委員) 一般論として、予算も載せて、資料も提示して、財政のことも考えて、個人が判断するように言われているが、前回も疑問だったが、個人がアンケートに一般家庭が財政面まで考えて、それで給食がいいのか、悪いのかの判断をするのは、どうかと思う。そういうことは抜きに、こういうメリットがあるだから給食をやりたいという声が上がって、それで、財政面を考えるのは役場とか議員とか、それだけのメリットがあるのであれば進めようとなると思う。ここにあるたたき台というのは、アンケートにつけて出すのか。

事務局) あくまで参考資料として、出すことを考えている。

委員) 最初にこれを読んだときに、過半数の人が給食をやりますとなった時にこれだと、出来ませんと取れる。それでも給食をやりたいという議論になってしまう。あまりにも住民に財政を含めた判断をしろというのはどうかと思う。財政面についてもパイの話があったが、箕面市のように別のところから助成金をお願いして、何かあれば賛同があるのではないかな。もっと純粋なアンケートでもいいのではないかな。方向性が決まっていなくてやりにくい。アンケートの内容では財政のことを抜きにすると議論しやすいのではないかな。

議長) 北欧型の議会制民主主義も、例えば、こういうコストが掛かります。消費税をこれだけあげないとこれをやるためにはできませんよ。どうしますか。選ぶか、選ばないか。と提案されている。結局、自分たちは大分のコストを負担してでもやると選択したから、税金が高くても不平不満はでない。そのかわり、きちんとした税金の使われ方がされている検証がなされているというのが前提。今回の学校給食のアンケートをやることについて、自分がそのアンケートの結果に関わりがあるか、ないか、それをやるとどういうことになるのか、そのあたりをきちっと前提として含んでいないと、理想論としては、やるべきだけど、自分がコストを負担することになると嫌だとなる。あるいは、理想論でもやるべきだし、自分の子どもは何年後かに恩恵を受けるから是非やるべきだ。ということもありうる。アンケートは非常に難しい。今のような、税のことなどを一回回答者に負担感を求めずにやるべきだという考え方もわからなくもない。そのあたりいかがか。

事務局) アンケートは、今回、ニーズを把握する手段として、結果をまた懇話会にフィードバックしてさらに、議論を重ねていただくことを考えていた。どちらにしろ、アンケートの取り方は難しいのは承知している。どうやって実施していくのか、それによって

誘導してはいけないと思っている。ただ、実情は知ってもらうことは必要と考えている。やり方については、たたき台もそうですが一例である。給食を実施するには、かなりの支出金額、影響のある内容で、慎重にやらなければならないし、きちんとニーズも把握しなければならない。そういう面でもアンケートは非常に難しいと感じている。今日の意見を聴いた内容を反映させて、内容を修正して再度 12 月に提示したい。

議長) 再度、事務局で内容を修正して次回提示する。今後のスケジュールはどうか。

事務局) 当初の予定では、アンケートを 12 月中に実施したかったが、次回再度、12 月上旬に懇話会を開催させていただき、具体的な案を提示したい。